

2020年12月25日発行

# 地域と協同の 研究センターNEWS 196号

## 協同組合のアイデンティティを考える

前田 健喜 日本協同組合連携機構 (JCA)

ICAは2020年、1895年の設立から125周年を迎えた。これを記念してICAは2021年12月、韓国・ソウルで世界協同組合大会（以下「大会」）を開催する。今年12月に予定されていたが、コロナ禍により延期されたものだ。また今年には「協同組合のアイデンティティに関するICA声明」（以下「声明」）採択25周年でもあり、大会テーマは「協同組合のアイデンティティを深める」である。

### ■「声明」とその背景

「声明」は、協同組合の定義を明示し、協同組合が基礎とする価値（自助、自己責任、民主主義、平等、公正、連帯）、協同組合の組合員が信条とする倫理的価値（正直、公開、社会的責任、他人への配慮）を掲げたうえで、原則を「価値を実践するための指針」として位置づけ、それまでの協同組合原則を踏まえて7原則を定めた。

「声明」ができた過程を、栗本昭・法政大学元教授の整理に基づき振り返ってみる。

1980年のICAモスクワ大会で、協同組合が「協同組合の真の目的、アイデンティティ（協同組合らしさ）を失いつつあるとして「思想的な危機」に直面していると警鐘を乱打した」レイドロ博士による報告『西暦2000年における協同組合』が、「協同組合の基本的なあり方についての国際的な議論」の発端だった。その後、1988年ストックホルム大会におけるマルコス会長による提起（「協同組合の基本的価値」として「参加」、「民主主義」、「正直」、「他人への配慮」を提起し、組合員に立ち返れとのメッセージを出した）、1992年東京大会でのバーク報告「変化する世界における協同組合の価値」（グローバルな基本的価値として「組合員のニーズに応える経済活動」、「参加型民主主義」、「人々の能力の発揚」、「社会的責任・環境に対する責任」、「国内的・国際的な協力」を提起）、東京大会での原則再検討作業の開始を勧告する決議を経て、1995年のマンチェスターでのICA総会でアイデンティティ声明の採択に至る。

### ■協同組合の価値を挙げてみる

このように、レイドロ報告において「協同組合の基本的なあり方」（栗本氏）が問われたことへの答えとして「声明」があった。だから、「基本的なあり方」として協同組合の定義や価値が初めて提示されたのだ。今ICAが、つまり世界の協同組合が、アイデンティティに焦点を当てているのは、「声明」採択25年を経て、この時代のなかで、私たちが協同組合の基本的なあり方に立ち返る、あるいは【2頁につづく】

### 研究センター12月の活動

1日(火) 市民講座運営委員会	10日(木) 名市大寄付講義⑩ 金城学院大学「協同組合論⑩」
3日(木) 第7回協同の未来塾 名市大寄付講義⑩ 金城学院大学「協同組合論⑩」	11日(金) 第4回組合員理事ゼミナール
4日(金) 第7回常任理事会	17日(木) 名市大寄付講義⑩ 金城学院大学「協同組合論⑩」
5日(土) 第5回共同購入事業マイスターコース	19日(土) 東海交流フォーラム実行委員会 第3回理事会
7日(月) 三重懇談会世話人会	24日(木) 金城学院大学「協同組合論⑩」 三河地域懇談会世話人会

※ コロナウイルス感染拡大予防のため、引き続き予定していたさまざまな活動を自粛しています。

目次	協同組合のアイデンティティを考える	1	「三河地域懇談会」 豊橋生協会館へ寄らまいかん	4
	前田 健喜 日本協同組合連携機構 (JCA)		オンライン ミニ企画 第1弾 第2弾	
	三重地域懇談会」のあゆみと地域の中で「とも	3	情報クリップ	6
	に暮らす」ことに想いを寄せて 妹尾成幸		書籍紹介「ジェンダーで読む映画評／書評」	8

それを問い直す必要を感じているからとも考えられる。

だとすれば私がここで、協同組合が基礎とする価値としてこんなことを入れたい、という妄想を述べるとしても、それほど場違いではないかも知れない（と願う）。

#### <多様であること>

価値に入れたいと真っ先に浮かんだのは「多様性」だ。さまざまな人や考えがあることをよいことと考える。一律でないことを（障害と捉えるのではもちろんなく、仕方のない現実と捉えるのでもなく）稀有のこと（有難いこと）、楽しいことと捉える。私が仕事で主に取り組んでいる協同組合間協同にとっての大事な価値でもある。

「べてるの家」の向谷地生良さんが最近こう書かれていて素敵だった。「この人さえいなければ」という人のおかげで事業が生まれ「もっとも能率の悪い人」のおかげで職場に工夫と創造力が培われ、「病気」のお陰で、一番大切なものを見失うことなく、「山積みの苦勞」によって場に助け合いが生まれて、職場の雰囲気がよくなり、それが人と場の成長を促す<sup>ii</sup>。多様性は、効率性や生産性を疑うことにもつながる。

#### <肯定的であること> <現在を楽しむこと>

多様性といえば思い出すのが、見田宗介さんが『現代社会はどこに向かうか』で「新しい世界を創造する時のわれわれの実践的な公準」として、多様性ととも挙げていた「肯定的であること」「現在を楽しむこと」だ<sup>iii</sup>。

「肯定的であること」について見田さんは、現存する社会を否定するだけではなく新しい社会の構想が必要、という趣旨のことを言っている（私も賛成）が、私としてはもう少し手前のところで、「前向きであること」「希望を持つこと」「よいところ（希望につながることを）を見つけること」という意味で、価値に加えたい。

「現在を楽しむこと」も私は大好きだ。見田さんは、「直接に心躍ること」とも言い換えている。理想社会の実現のために現在の生を手段化し、抑圧を正当化してきたという「20世紀型革命の破綻」を踏まえ、「解放のための実践はそれ自体が解放でなければならない」と見田さんはいう。協同組合の価値とするなら「協同すること自体を楽しむ」となるかもしれない。例えば、協同組合の話し合いが結論に至らなかったとしても、その時間は無駄だったわけではなくて、自分とは異なる考えや気持ちを発見し、自分のなかにもこれまでとは異質なものを発見する充実した時間だった、と感覚できたら素敵だ。

#### <わからないということを基本に置くこと>

こう考えてくると、「わからないということを基本に置くこと」も価値として入れたい。例えば、コロナ禍のあとの社会はどうあるべきなのか、それをどう創っていくのか、私たちは社会に必要な仕事をどう分担するのか、どこまでを市場に任せ、どこまでをそうしないのか、再分配をどうするのか、等々わからないことばかりで気が遠くなる。簡単に結論が出そうもない。でも、たぶんそういうものなのだ。多様な人が協同するプロセスから、副産物が生まれたり、脱線したり、当初の目標と別の方向に向かったりしながら、少しずつでも事態が改善するなら上出来ではないか。

#### <話し合うこと> <実感を大切にすること>

関連して入れたくなるのが「話し合うこと」だ。目標がよくわからなくても、方向感はある。そんななか手探りで解決を探るためにはどうしても、相談できる仲間にいってもらわないと困る。

最後に入れたいのが「実感を大事にする」だ。仲間と話し合いながら協同組合は手探りでよりよい社会を探していくことになる。その時の根拠となるのがそれぞれの人の「実感」だと思う。わからない世界のなかで最後に頼れるのは私たち自身の感覚だと私は思っている。

以上、私なりに協同組合が基礎とすべき価値を挙げてみた。どんな協同組合ができそうだろうか？

（まえだ けんき）

<sup>i</sup> 続く1段落は栗本昭編著『21世紀の新協同組合原則<新訳版>—日本と世界の生協 この10年の実践』（2006年、コープ出版）に基づく。地の文からの（ ）および「 」内は同書からの引用。

<sup>ii</sup> 向谷地生良「協同の文化としての当事者研究」『協同の発見』No.336（2020年11月）

<sup>iii</sup> 見田宗介『現代社会はどこに向かうか—高原の見晴らしを切り開くこと』（2018年、岩波書店）補章

**「三重地域懇談会」のあゆみと地域の中で「ともに暮らす」ことに想いを寄せて**

妹尾成幸（せのお しげゆき）三重地域懇談会世話人

「三重のつどい」（三重地域懇談会）の最初の集まりは 2006 年 11 月 26 日、“住みよいくらしと地域づくりを考える”がテーマだったと聞いています。以来、生協役職員とそのOB・学識者や研究者など多くの方々が参加し、人と地域を知り、学び、必要なことを話し合い、地域に発信していく活動が 15 年続いています。

新しい年度を迎えるたびに、前年度の取り組みのまとめをおこないながら、話しあってきたことは、医療介護・農業・地域おこし・地域福祉（子ども食堂、フードバンク）と多文化共生です。地域の中で起こっていることをみる切り口は様々ですが、「三重のつどい」の根底の一つに“くらしを支えあうネットワークづくりを考える”があります。

2008 年は津市美杉地域（旧美杉村／2006 年に津市と合併）の現状とこれからの注目しました。2008 年というのは、リーマンショックが起こった年でもありました。その後、2013 年～コープみえの森づくりを、この美杉地域で、三重県・津市・中勢森林組合と協働でおこなっています。地元の「多気の郷（たげのさと）元気づくり協議会」等と生協組合員向けの企画をおこなうようになりました。

2010 年～は視点を福祉に置き、“安心してくらしを”ことを話し合いはじめた矢先、2011 年 3 月東日本大震災が発生しました。被災地・被災者へ想いを寄せながら、2012 年三重のつどいは「きたるべき災害に備えて、私たちがなすべきこと」をテーマに開催しています。以降、地域を元気にする取り組みと人に着目し、「水土里（みどり）ネット立梅（たちばい）用水型小水力発電プロジェクト」や「多気町まごの店（高校生レストラン）」訪問し、三重県の若手農業家の発表の場「みえ次世代農家トークバトル」等を開催し、地元の方たちと知り合い、考え合うことを大切な取り組みとしています。

2016 年～あらためて“地域福祉について考える”ことの視野をひろめてきました。当時は三重県で始まって間もない「子ども食堂」の一つ、NPO 法人太陽の家／代表・対馬さんとの懇談をきっかけに、貧困・困窮の実態や現状の課題を学び合いました。調査していく中で、各地域で「子ども食堂」が立ち上がるものの、おたがいの協力関係がないことがわかり、出会いと学びの場として“三重のプチフォーラム”を、子ども食堂 5 団体・伊勢市社協・生協役職員などで 2018 年 3 月に開催しました。現在では、活動する団体が主体となり、三重県子ども食堂ネットワークが立ち上がっています。また、コープみえ事業所とも地域の中で懇談がおこなわれるようになっていきます。

2019 年～現在は、フードバンクの活動調査等を通して見えてきた、日本社会の課題／外国籍住民の方々との共生を主テーマに、実態調査と私たちになにができるのか、の話し合いをすすめています。東海 3 県の外国籍住民は約 40 万人、そのうち、三重県には 55,000 人がくらししています。そのくらしの実態を三重県国際交流財団や三重県ダイバーシティ推進課、支援団体「NPO 法人伊賀の伝丸（つたまる）」、「フードバンク多文化みえ」等の取り組みから知り、共生は地域住民全体の課題であることが“我が事”として、わかってきました。1990 年／入国管理法改正以降、労働者として日本に来られた方々にとって、地域住民として自立する支援制度が十分でなく、周囲からの生活者としての受け入れや支援も乏しく、依然として社会的に不利・不安定な立場が続いています。先のリーマンショックや今のコロナ禍においても、真っ先に雇用解除となるのは立場の弱い人たちです。実際にブラジルからの移住者レオニセさんは「27 年前（移住した当初）と（くらしにくさは）基本的に変っていない」と言います。同じように、日本人も不安定でくらしにくく孤立しやすい、日本社会となってきました。そういった社会の全体像をつかみながら、いま、そこにある一人ひとりのくらしに目を向ける必要を“多文化共生を知る”中で学び合っています。誰もがフラットな関係の中で“外国籍住民も含めた、多様な主体が自分の住む地域でつながってくらししていけること”、そのために“私（自分）になにができるのか”、三重地域懇談会でなにができるのかを引き続き、話し合い、発信していきたいと思えます。

## 「三河地域懇談会」豊橋生協会館へ寄らまいかん オンラインミニ企画 第1弾 第2弾



10月10日、第1弾の朝、台風接近！でもオンラインで無事開催できました。文責：伊藤小友美（事務局）

「寄らまいかん」は奥三河の方言で「集まりましょう」という意味です。

この3年間、私たちは「豊橋生協会館へ寄らまいかん」を開催してきました。今年の春も、4回目を開催すべく準備をしましたが、新型コロナウイルス感染拡大防止のため、残念ながら開催を見送ることとなりました。世話人会でいろいろ相談をし、多くの方が集まらないようにして、準備してきた学習の場を分散して、オンラインで開催することとしました。

それに先立ち、先月のニュースでご報告したように、zoomアプリを端末に入れる学習会も開催しました。オンラインミニ企画第1弾、第2弾の報告をいたします。

### 第1弾

### テーマ：「災害時における高齢者の食」

日程：10月10日（土）10時～12時 オンライン発信会場：豊橋生協会館

講師：熊崎稔子（くまざきとしこ）さん（愛知学泉大学講師・管理栄養士・コープあいち食と健康アドバイザー） オンライン参加 11名 会場参加 8名

#### 【講演概要】

栄養素は大きく分けて5つ（炭水化物・脂質・たんぱく質・ビタミン・ミネラル）あり、3つの働きがあります。炭水化物・脂質はエネルギー源になり、たんぱく質は筋肉や血液等身体をつくる働きがあり、ビタミン・ミネラルは身体の調子を整えます。炭水化物は主食、脂質・たんぱく質は主菜、ビタミン・ミネラルは副菜になります。ビタミン・ミネラルは野菜・果物に含まれていると思われがちですが、実は主食、主菜の中にも含まれています。例を挙げると、

レバー（ビタミンA）、鮭（ビタミンD）、納豆（ビタミンK）豚肉（ビタミンB1）等があります。

ひとつのものにこだわらず、いろいろなものを食べるとか、毎日、違うものを工夫して摂取するとか、一週間の中でバランスよく食べられたらいいと思います。テーブルの上を、ご飯を中心とした主食・主菜・副菜という3つの皿（生協では汁物を加えて4つのお皿と言っています）でととのえてもらえたらバランスがとれると思います。難しくはないと思います。

高齢者というのは65歳以上とされていますが、元気な方もたくさんいます。年齢より、個人の「身体の状態」と「心の状態」を考えて、臨機応変に対応することが必要です。嚥下困難な方にはおかゆ、病気の方には薬等それぞれ必要なものを備えましょう。

災害時にも食べ慣れたものがあると、日常の延長で過ごせます。高齢者はご飯が好きだと思っていたのですが、朝、パンを食べる方が意外と多いのです。避難所で配られるのは個包装の菓子パンが多いようです。そういうものを食べ慣れておくことも必要です。災害時用に缶に入ったパンもあります。常備しておくといいでしょう。生協のコモパンも長持ちしますのでいいと思います。缶詰を買ってみて好きなメーカー、好きな缶詰を研究しておくとも安心です。災害時に開けて食べてみずかったら、気分が下がります。災害時に使うという視点で生協の商品カタログを見ることも大事です。結構役に立つ商品があります。カタログを上手に活用してほしいと思います。

主食・主菜・副菜をそろえることによって、低栄養を防ぐことができます。低栄養はどんどん身体の状態が悪くなってしまいますし、気力の低下にもつながります。軽い認知症の人でも重症になることがあります。低栄養は身体能力の低下につながりますので、気をつけましょう。水分も大事です。水分をこまめに摂って、脱水を防いでください。心の栄養として、甘いものや好きなものも用意しておきましょう。



【事務局より】参加者からの質問に、栄養士や介護職の方からもアドバイスがあり、参加者同士のやりとりも生まれ、学びあいの場にもなりました。ポリ袋調理の実演もあり、質疑応答も楽しく行い、充実した企画となりました。先生のおすすめを表にしました。参考になれば幸いです。

	ふだんの食材	備蓄しておくといよいもの
主食（炭水化物）	ご飯、パン、麺、スパゲティ、シリアル	レトルトのご飯、おかゆ（様々な種類があります）、缶パン、長期保存できるパン
主菜（たんぱく質）	肉や魚、大豆	サバの缶詰、味噌煮、イワシの蒲焼缶、焼き鳥缶、大豆ドライパック、レトルトカレー
副菜（脂質・ビタミン・ミネラル等）	野菜、果物、サラダ油、オリーブオイル、ゴマ油、バター、肉や魚	野菜ジュース、果物の缶詰（白桃、みかん、パイナップル）、種抜きプルーン、切干大根、わかめ、ひじきのドライパック、味噌汁の具

第2弾

テーマ：「ドライパックのすすめ」

日程：11月20日（金）10時～12時 オンライン発信会場：豊橋生協会館  
 講師：大竹悠介（おおたけゆうすけ）さん（トアス(株)）  
 オンライン参加 12名 会場参加 12名

【大豆ドライパックの特長】

大豆のドライパックは今年で発売32年。水煮の大豆の改良版として発売しました。乾物と比べると、一晩水につけるとかゆでるということを省くことができ、さらに改良したのがドライパックです。特長は次の3つです。

- ・水に浸かっていないので栄養が逃げない。
- ・ほくほくした食感を楽しめる。
- ・そのまま食べてもおいしい。

ローリングストックをおすすめしています。いろんな料理にアレンジできますし、いざというときにはそのまま食べてもらってもおいしい！ 有事には不安がいっぱいです。ふだん食べ慣れているものがないと思います。

【ドライパックのできるまで】トアス(株)のホームページのバーチャル工場見学のページを見ながら、①侵漬・調合、②選別、③充填、④殺菌、⑤包装、⑥出荷の製造工程も説明いただきました。国産の原材料にこだわり、異物混入等にも最善の注意を払っているとの説明があり、出された質問にも丁寧にお答えいただきました。



【事務局より】レシピのエピソード、そして作り方のポイントも紹介いただきました。「非常においしいです！」「本当に美味しいです！」「私は強くお勧めします！」という力のこもったお言葉とユーモアを織り混ぜたお話に、会場からもオンラインの画面越しからも何度も笑いが起こりました。



メニューは「大豆のみぞれ和え」「大豆の醤油バター炒め」「大豆とキャベツの塩昆布和え」「ひじきとコーンのゆずぽん酢和え」「ひじき入りツナマヨコーンサラダ」等です。相性のよいドレッシング、刻みネギ、すりゴマ、小皿に添える大葉等の一手間が大切です。

当日の講演を YouTube でご覧いただけます。ご希望の方は奥付の事務局までご連絡ください。



# 情報クリップ

co-opnavi 2020.12 No.823

## コロナ禍で影響を受けた学生を生協がサポート

日本生活協同組合連合会 2020年11月25日 A4判 36頁 367円

<コープ商品のある風景>

CO・OPミックスビーンズドライパック

コープえひめ組合員 望月愛さん

特集

コロナ禍で影響を受けた学生を生協がサポート

<今日も笑顔のコープさん 生協の仲間のお仕事拝見>

こうち生協 山本 文さん

<想いをかたちにコープ商品>

CO・OP6種のチーズを使った

チーズインハンバーグ デミグラスソース

<生協大好きママ コプ山さんの 教えて! CO・OP商品>

CO・OP炊き込みパエリアの素

<商品と向き合う 私たちの仕事>

コープデリ連合会 宅配編集部 編集2グループ

<ZOOM IN 生協の店舗づくり> ユーコープ井田三舞店

<日本全国宅配現場におじゃまします!> 生協くまもと

<組合員の助け合い活動>

コープさっぽろ

<SDGs REPORT>

東京保健生協

<明日の暮らし ささえあうCO・OP共済>

青森県生協連

<この人に聴きたい>

横浜創英中学・高等学校 校長

工藤勇一さん

<CO・OP商品60周年 総選挙2020 結果発表>

<コミュニケーション広場>

## 月刊JA 2020.12 vol.790

一般社団法人 全国農業協同組合中央会 2020年12月 A4判 48頁 年間予約5,204円(消費税込)

スゴイ農業、スゴイJA

JA自己改革の現場から

組合員の声から出発するJA自己改革

—JA広島中央(広島県)の取り組み 小林 元

JA・農政トピック

HACCPの義務化について考える

JA全中 営農・暮らし支援部 営農担い手支援課

きずな春秋—協同のこころ—

童門冬二

展望 JAの進むべき道

令和2年度

JA営農・経済担当常勤役員・幹部職員研修会の開催について

(第6回JA営農・経済フォーラム) 脇岡弘典(JA全中常務理事)

私のオピニオン ①

佐藤 優

私のオピニオン ②

湊 かなえ

JA全中マンスリーレポート 11月

協同組合とSDGs 第19回

釜石地方森林組合の取り組み

高橋幸男

協同組合の広場(日本生協連、JF全漁連、全森連、生活クラブ連合会)

「郊外の農村」の移り変わり

藤田隆広

りんご、ワンテーマ

谷村志穂

海外だより [D.C.通信] 連載114

バイデン政権における当面の貿易政策の見直し

伊澤 岳

令和元年度 JA経営マスターコース優秀論文紹介

全国農業協同組合連合会会長賞

JAみやぎ仙南におけるブランディング

開場弘樹/JAみやぎ仙南 (宮城県)

トピック① 子どもたちに「より良い社会」を残すため

～JA女性組織への期待～

木幡美子

トピック② コロナで分かった「僕たちの強み」

—三芳町川越いも振興会 JA全中 広報部 広報課

## 生活協同組合研究 2020.12 No.539

### 特集 新型コロナウイルス感染症と消費者の生協

公益財団法人 生協総合研究所 2020年12月5日 B5判 64頁 500円(消費税別)

■巻頭言

性的マイノリティの権利保障

天野晴子

特集 新型コロナウイルス感染症と消費者の生活

生協と「With コロナ時代の食品マーケティング」

北濱利弘

新型コロナで変わる雇用市場

小方尚子

新型コロナウイルス感染症による

高齢者の生活の変化と必要な支援

荒井秀典

新型コロナウイルス感染拡大前後の生協利用の変化

中村由香

新型コロナウイルス感染症と家庭の消費支出の変化

宮崎達郎

■新型コロナウイルスへの各国生協の対応 ⑥

フランスのCOVID-19と生協の対応(上)

鈴木 岳

■本誌特集を読んで(2020・10) 野々山理恵子・石堂徹生

■書籍紹介

Morris Altman Anthony Jensen, Akira Kurimoto ed.

“Waking the Asian Pacific Co-operative Potential” 和泉真理

■研究所日誌

●2020年度公開研究会(12~1月) オンライン・四ツ谷

・感染予防体制下での食生活の動向

—家計と購買データをみる

(12/8)

・「労働者協同組合」を学ぶ・国際編

(12/25)

・新型コロナウイルス感染症影響下の地域における活動

～組織の枠を超えた医療生協の取り組み事例から～

(2021/1/21)

●第13回生協総研賞「表彰事業」候補作品推薦のお願い

**No. 440 2020・10 季刊社会運動**  
**コロナ下のマイノリティ 子ども、生活困窮者、障がい者、外国人**  
**一般社団法人市民センター政策機構 2020 年 10 月 15 日 A5 判 172 頁 1,000 円 (消費税別)**

特集 コロナ下のマイノリティ	メディアと大阪府知事
子ども、生活困窮者、障がい者、外国人	ノンフィクションライター 松本 創
FOR READERS 誰も助けてくれない社会になる	ヘイトと日本社会
『社会運動』 編集長 白井和宏	ノンフィクションライター 安田浩一
家族の序列と女性 元衆議院議員 井戸まさえ	エッセイ 写真家 齋藤陽道
「ステイホーム」と少女たち	アイヌアートプロジェクト代表 結城幸司
Colabo 代表・社会活動家 仁藤夢乃	文筆家 栗田隆子
コロナ感染拡大下の外国人労働者	各地の生活クラブから
国士舘大学文学部教授 鈴木江理子	フードバンクかながわ
「新しい生活様式」と視覚障がい者	生活サポート基金
全日本視覚障害者協議会総務局長 藤野喜子	西東京・ワーカーズまちの縁がわ「木・々」
生活困窮者とハウジングファースト	ちば市民活動・市民事業サポートクラブ
つくろい東京ファンド代表理事 稲葉剛	生活クラブ生協・埼玉 飯能支部
外国につながる高校生の困難	連載
東京都立一橋高等学校主任教諭 角田 仁	韓国語翻訳家 架けられた橋の上に佇む 第 5 回
性風俗で働く女性たちの現実	「あなたに」の「タニ」だけが残った歌謡曲のこと
ばっぶすスーパーバイザー 宮本節子	韓国語翻訳家 齋藤真理子
これからの食料危機	悼みの列島 日本を語り伝える 第 17 回
資源・食料問題研究所代表 柴田明夫	75 年後の広島 原爆と軍都の記憶 ライター 室田元美

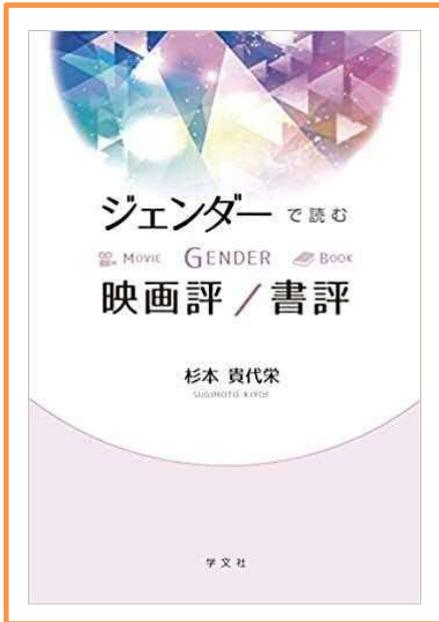
**文化連情報 2020.12 No. 513**  
**未来の地域医療を求めて 第 69 回日本農村医学会学術総会を開催して**  
**日本文化厚生農業協同組合連合会 2020 年 12 月 1 日 B5 判 96 頁 文化連情報編集部 03-3370-2529 \*注**

農協組合長インタビュー (69)	国民が安全安心に暮らせる社会の構築 (5)
ソーラー発電で電気を賄う 井坂英嗣	働く福祉ワークフェアの実現から社会的経済組織へ
医療事業会員厚生連の	「自活企業」 友岡有希
2019 年度決算の財務諸表を読んで 岡田展也	多様な福祉レジームと海外人材 (31)
院長インタビュー (323)	コロナ禍のアクションリサーチ
外科スピリッツで、震災 10 年の地域医療にまい進 大木進司	臨床倫理メディアエーション (46)
二木教授・新書出版記念インタビュー	AI と倫理 中西淑美
コロナ危機後を展望し診療報酬改革、地域医療構想を 二木 立	第 6 回厚生連病院臨床研究研修会開催報告
コロナ禍を乗り越える協同組合医療・福祉の交流	～COVID-19 と昨今の臨床研究～ 酒井真弓
「第 2 回協同組合の地域共生	アフガニスタンから見た世界と日本 (7)
(地域包括ケア) フォーラム」に 350 人 橋口奈央	ノーベル平和賞を受賞した「世界食糧計画」の評価について
第 69 回日本農村学会学術総会を開催して 川口 鎮	レジャーード カレット
日本文化厚生連第 26 回臨時総会を開催	デンマーク & 世界の地域居住 (138)
経営管理委員に斉藤一志氏を補欠選任	アセットベースト・アプローチ 2 松岡洋子
国内初の検査システム導入で患者負担減へ	熱帯の自然誌 (57)
豊田厚生病院の検査のいま 中根生弥	私の暮らし ブルネイにて (3) 安間繁樹
アメリカの医療政策動向 (5)	ドイツの介護保険制度 (15)
大統領選挙と医療政策における争点 高山一夫	フーフエラント高齢者総合施設 ③
変わる日本のまちづくり (6)	理念とサービス提供 小磯 明
こども食堂の中間支援組織：旭川おとな食堂 杉岡直人 畠山明子	◇【資料】医療福祉団体等のコロナ関連要請の紹介
ドイツの対 COVID-19 戦略	▶線路は続く (149)
「ライト級」ロックダウンで第二波を崩す 吉田恵子	別れと再会の秋田臨海鉄道 / 西出健史
	▶最近見た映画 おらおらでひとりいぐも / 菅原育子

地域・協同の運動、協同組合に関する文献資料、協同組合・生協関係の研究機関などの調査研究成果や研究センター会員の研究成果などから、比較的入手しやすいと思われるもの、寄贈いただいたもの(♣)などを中心に順不同で紹介しています(主な内容は目次等から事務局が要約しています)。詳細は研究センター事務局までお気軽にお問い合わせください。

書籍紹介

地域と協同の研究センター団体会員からの書籍ご紹介



「ジェンダーで読む映画評 / 書評」

著者：杉本貴代栄 出版：学文社  
 本体：2000円（税別） 単行本 230ページ

あなたは、映画を見るのがお好きでしょうか？私は足しげく映画館へ通い、または見逃した映画や昔の映画を見るためにDVDを借りることもしばしばです。なぜなら映画は、私たちの社会をよく反映しているし、なかでも家族や女性の生き方を描くことが多いからです。本書は、そのような理由から映画（とベストセラーとなった書籍）を取り上げて、ジェンダーに関する知見を読み解くことを試みたものです。ジェンダー（gender）、つまり生物学的な性別（sex）に対して、社会的・文化的につくられた性別のことであり、性差別のない社会の実現のためには、ジェンダーに基づく偏見や差別を克服しなければなりません。映画（や書籍）は、そのための良き教材となります。本書に収められた「フラガール」や「Shall we ダンス？」等の映画から、ジェンダーの課題を読み取ってみませんか。

杉本貴代栄（NPO法人「ウイメンズ・ボイス」理事長）

【ウイメンズ・ボイスのご紹介】

「ウイメンズ・ボイス」は、2015年に名古屋市から認証されたNPO法人です。男女共同参画社会の実現を目指し、女性に関する研究と活動を行うことを目的として設立されました。具体的な恒常的な活動としては、「女性相談事業」に力を注いでいます。2015年10月から、「コープあいち」と協力し、女性総合電話相談事業「ウイメンズ・ボイスコール」を開始しました。2016年からは面接相談（予約制・無料）も開始しました。毎週火曜日の、10時から16時まで実施しています（電話052-781-6176）。この相談事業では、暮らしの困りごとから、夫婦関係や家族、子育て、介護など生活のなかのさまざまな問題をはじめ、女性が今、誰かに相談したいこと、聴いてほしいという声を受けとめます。また専門機関や行政機関の情報などを紹介し、問題解決を目指します。相談には、専門的で経験豊かな相談員が担当します。皆様からのお電話をお待ちしています。

地域と協同の研究センター1月の予定

- |   |                                     |
|---|-------------------------------------|
| 7日（木）名市大寄付講義⑬<br>金城学院大学「協同組合論③」               | 21日（木）名市大寄付講義⑮<br>金城学院大学「協同組合論⑤」    |
| 14日（木）第8回協同の未来塾<br>名市大寄付講義⑭<br>金城学院大学「協同組合論④」 | 22日（金）第11期共同購入事業マスターコース<br>修了者実践交流会 |
| 15日（金）瑞浪市研修会                                  | 28日（木）金城学院大学「協同組合論」試験               |
|   | 30日（土）第6回共同購入事業マスターコース              |
- \*企画は新型コロナウイルス感染拡大防止のため中止・延期することがあります。ご参加の前にホームページ等でご確認ください。

地域と協同の研究センターNEWS196号

発行日 2020年12月25日 定価 200円（税・送料込み）

年会費には購読料が含まれています

発行 特定非営利活動法人 地域と協同の研究センター 代表理事 鈴木 稔彦

〒464-0824 名古屋市千種区稲舟通1-39 TEL 052-781-8280 FAX 052-781-8315

E-mail [AEL03416@nifty.com](mailto:AEL03416@nifty.com) HP <http://www.tiiki-kyodo.net/>